コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進事例

学校で行う地域学校協働活動

２　学校の課題解決に関すること

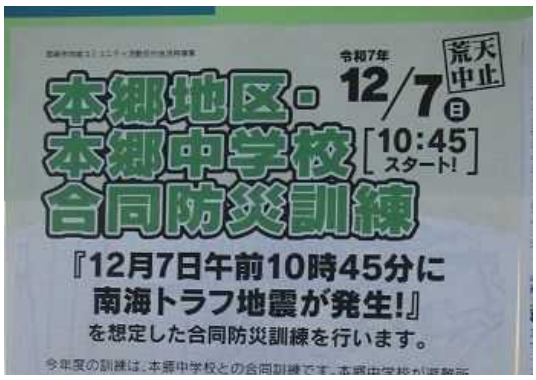
⑵　不登校・防災等支援活動【不登校対策、防災・防犯対策支援など】

【生目台中・生目台東小】地域と合同の防災訓練　～総合的な学習の時間～

- **生目台のまちづくりに貢献できる力を育成するための学びの推進を学校運営協議会で承認**
- 地域と小中学校合同の防災訓練
- 生目台地区防災対策委員会が主催
- １５年ほど前から中学校と訓練を実施
- 小中一貫校を見据えて令和７年度からは生目台東小４年生も一緒に訓練
- 多様なブースを設け防災訓練を実施している。

【本郷中・国富小】地域人材と連携した地震・津波想定の防災訓練

- **学校運営協議会で防災、挨拶、読書を3校で推進していくことを確認**
- 本郷中では、1年の総合的な学習の時間で防災について学習。その一環として、本郷地区の自治会連合会やまちづくり推進委員会と連携した「本郷地区・本郷中合同防災訓練」を実施。中学生が避難所運営の経験を積む。
- 国富小では国富防災の日を設定し避難訓練を年間３回程度抜き打ちで実施。地域の防災コーディネーターを講師として招聘
- どちらの学校も訓練を重ねながら課題を随時改善している。



【大宮小】校内教育支援教室　～民生委員児童委員による学習支援ボランティア～

- **学校運営協議会で【絆プロジェクト　家庭・地域と協働で取り組む教育の推進（地域コミュニティとの融合）】を承認**
- 令和６年度から不登校傾向の児童の居場所として学校単独で校内教育支援教室を開設
- 毎週火曜日と金曜日の８：３０～１２：００を基本の開級日とし、生徒指導主事が基本的に対応
- 教職員の他、大宮地区民生委員児童委員が学習支援ボランティアとして支援に入る。主任児童委員は、大宮中学校区の学校運営協議会委員
- ボランティアは全部で２５名程度。主任児童委員が割り振りを行っている。
- 学習は担任から出された課題を中心に基本的には自学。生徒指導主事が対応できるときに個別指導にあたる。加えて学習支援ボランティアが児童に寄り添い、コミュニケーションをとることで、不登校傾向の児童、学級に入れない児童が安心できる居場所となっている。
- 年１回の学校と民生委員児童委員との連絡会で児童の成長や今後の目標など、学校からの報告がある。教室に入れなかった児童が翌年教室に入れるようになるなど、成果を上げており、学習支援ボランティアの励みにもなっている。

【青島小】地域と連携した防災訓練「逃げトレ」　～３、4学年総合的な学習の時間～

- **学校運営協議会で青島の最大の課題として、地震・津波対応を確認。見通しをもって避難訓練を実施し、自分の命は自分で守る行動の指導を行うことを承認**
- ３、４学年は総合的な学習の時間に防災をテーマに取り組む。
- 地域の防災マップ作りや宮崎公立大学から講師を招き、防災避難アプリ（逃げトレ）を活用した避難訓練を実施
- 訓練当日は、地域の人材も児童の避難の見守りやサポート活動を行う。

【大久保小】地域企業の支援を受けた防犯教室　～１、2学年　学級活動～

・学校運営協議会で家庭・地域との連携による学校経営に努めることを承認

・地域企業が地域貢献事業の一つとして防犯教室を学校に提案

・地域企業の代表は清武中学校区の学校運営協議会委員

・１、２学年の学級活動で防犯について学ぶ機会を設定

・企業のキャラクターが児童の興味関心を引き付けながら、ワークショップを展開

・児童は楽しみながら、自分の身は自分で守ることを具体的に学習

・地域の見守りボランティアや民生委員児童委員も同席し、学習内容を共有

【西池小】ストリートウォッチング（地域防災学習）　～５学年総合的な学習の時間～

・学校経営方針の一つとして危険予測・回避能力と実践力の育成を目指している。

・東日本大震災の後、宮崎公立大学と中央西まちづくり推進委員会の支援により始まった学習であり、現在も大学、地域、保護者の協力を得て継続している。

・５学年児童が５、６名のグループに分かれ、まちづくり推進委員会のメンバーがリーダーとなって設定されたコースを回る。児童は危険個所を調査し、記録していく。PTAの学校サポーターも協力し、安全面の補助を行う。

・児童はグループごとに調べた危険個所を西池地区の防災マップとして一つにまとめ学期末に保護者向けに発表する。

・児童の気付きは、まちづくり推進委員会のメンバーにも共有され、危険個所の修繕にも生かされている。

・「児童の危険予測・回避能力の育成」と「安全なまちづくり」の双方向に意義のある活動になっている。